

令和 2 年 12 月 14 日

地球温暖化予測情報第 9 巻 正誤表

地球温暖化予測情報第 9 巻について、気温要素のバイアスの算出過程に不備があったことが判明したため、これを修正して再計算を行いました。その結果に基づき、予測値及びバイアスの値の一部を以下の正誤表のとおり訂正します。なお、変化傾向の有意性や結果の解釈に変更はありません。

ページ	項目	訂正内容
17	第 2.4 項 図 2.4-1、図 2.4-2 及び付表	別紙 1 のとおり
18	第 2.5 項 図 2.5-1、図 2.5-2 及び付表	別紙 2 のとおり
19	第 2.6 項 図 2.6-1、図 2.6-2 及び付表	別紙 3 のとおり
20	第 2.7 項 図 2.7-1、図 2.7-2 及び付表	別紙 4 のとおり
21	第 2.8 項 図 2.8-1、図 2.8-2 及び付表	別紙 5 のとおり
22	第 2.9 項 図 2.9-1、図 2.9-2 及び付表	別紙 6 のとおり
A6	【資料 3】 A3.1.4 表 A3.1-4(b)	別紙 7 のとおり
A7	【資料 3】 A3.1.5 表 A3.1-5(a)(b)	別紙 8 のとおり
A8	【資料 3】 A3.1.6 表 A3.1-6(a)(b)	別紙 9 のとおり
A9	【資料 3】 A3.1.7 表 A3.1-7(a)(b)	別紙 10 のとおり
A10	【資料 3】 A3.1.8 表 A3.1-8(a)(b)	別紙 11 のとおり
A11	【資料 3】 A3.1.9 表 A3.1-9(a)(b)	別紙 12 のとおり
A16	【資料 4】 A4.1 図 A4.1 及び付表	別紙 13 のとおり

A17	【資料 4】 A4.2 図 A4.2 及び付表	別紙 14 のとおり
A18	【資料 4】 A4.3 図 A4.3 及び付表	別紙 15 のとおり
A19	【資料 4】 A4.4 図 A4.4 及び付表	別紙 16 のとおり
A20	【資料 4】 A4.5 図 A4.5 及び付表	別紙 17 のとおり
A21	【資料 4】 A4.6 図 A4.6 及び付表	別紙 18 のとおり

第 2 章 4 節 図 2.4-1、図 2.4-2 及び付表 (17 ページ)
(正)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.4 猛暑日

図 2.4-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の猛暑日（最高気温が 35℃以上の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.4-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の猛暑日の年間日数の差を示したものである。

猛暑日となるような極端に暑い日の年間日数は、沖縄・奄美で 54 日増加するなど、全国的に有意に増加し、沿岸部など標高の低い地域でより多くの増加がみられる（図 2.4-1、図 2.4-2）。これは、例えば、沖縄・奄美に属する那覇の場合、現在（1981～2010 年観測値の平均値）の年間日数が 0.1 日なので、21 世紀末には約 54 日になることに相当する¹。北日本では主に夏、東日本以西では夏から秋にかけて増加している。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

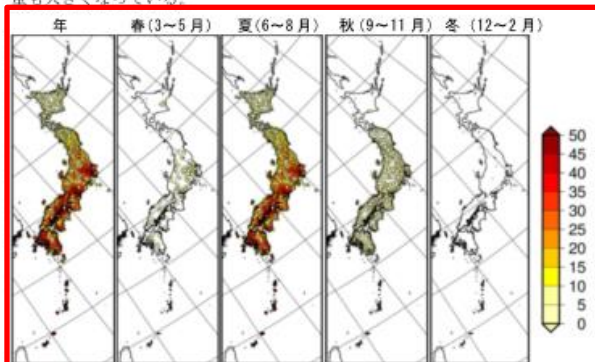
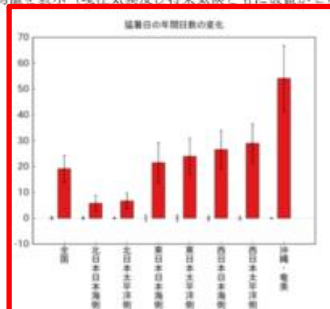


図 2.4-1 年及び季節ごとの猛暑日の日数の将来変化（単位：日）

将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を示す（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	19.1 ± 5.2
北日本日本海側	5.7 ± 3.1
北日本太平洋側	6.6 ± 3.1
東日本日本海側	21.4 ± 7.8
東日本太平洋側	23.9 ± 7.0
西日本日本海側	26.5 ± 7.4
西日本太平洋側	28.9 ± 7.5
沖縄・奄美	54.0 ± 12.7

図 2.4-2 全国及び地域別の猛暑日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.1 参照。

¹ あくまでも地域平均した将来変化量を単純に加えた場合である。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

2.4 猛暑日

図 2.4-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の猛暑日（最高気温が 35℃ 以上の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.4-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の猛暑日の年間日数の差を示したものである。

猛暑日となるような極端に暑い日の年間日数は、沖縄・奄美で 54 日増加するなど、全国的に有意に増加し、沿岸部など標高の低い地域でより多くの増加がみられる（図 2.4-1、図 2.4-2）。これは、例えば、沖縄・奄美に属する那覇の場合、現在（1981～2010 年観測値の平均値）の年間日数が 0.1 日なので、21 世紀末には約 54 日になることに相当する¹。北日本では主に夏、東日本以西では夏から秋にかけて増加している。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

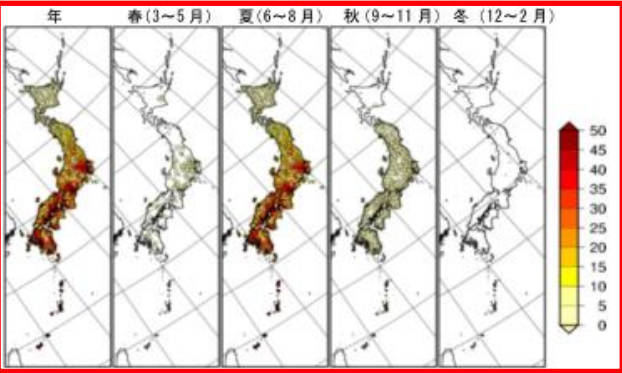


図 2.4-1 年及び季節ごとの猛暑日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。

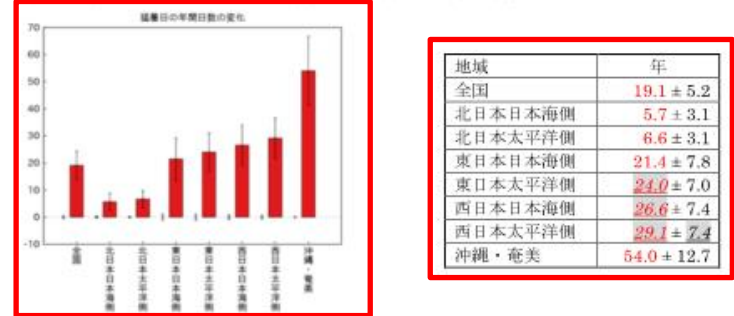


図 2.4-2 全国及び地域別の猛暑日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.1 参照。

¹ あくまでも地域平均した将来変化量を単純に加えた場合である。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

第 2 章 5 節 図 2.5-1、図 2.5-2 及び付表 (18 ページ)
(正)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.5 真夏日

図 2.5-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の真夏日（最高気温が 30℃以上の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.5-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の真夏日の年間日数の差を示したものである。

真夏日の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本太平洋側で 30 日程度、沖縄・奄美で 88 日程度となっており、特に夏の増加が大きい（図 2.5-1、図 2.5-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

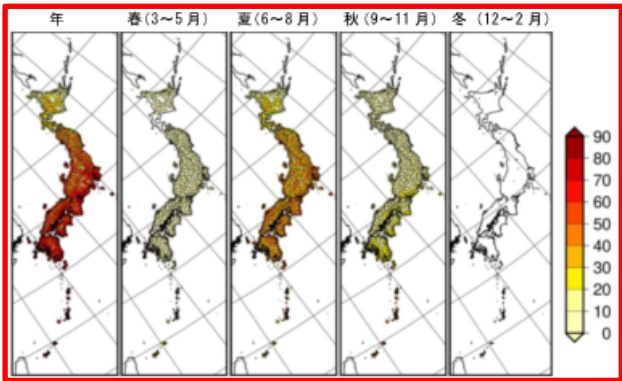
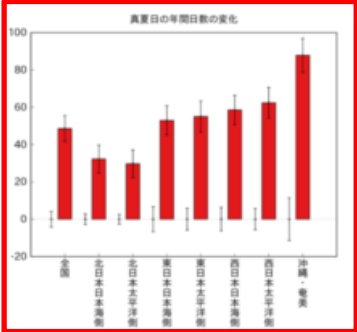


図 2.5-1 年及び季節ごとの真夏日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	<u>48.6</u> ± 7.0
北日本日本海側	<u>32.3</u> ± 7.5
北日本太平洋側	<u>29.7</u> ± 7.5
東日本日本海側	<u>53.0</u> ± 7.9
東日本太平洋側	<u>55.0</u> ± 8.3
西日本日本海側	<u>58.5</u> ± 7.9
西日本太平洋側	<u>62.4</u> ± 8.2
沖縄・奄美	<u>87.8</u> ± 9.1

図 2.5-2 全国及び地域別の真夏日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼水準 90% で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.2 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.5 真夏日

図 2.5-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の真夏日（最高気温が 30℃以上の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.5-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の真夏日の年間日数の差を示したものである。

真夏日の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本太平洋側で 30 日程度、沖縄・奄美で 88 日程度となっており、特に夏の増加が大きい（図 2.5-1、図 2.5-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

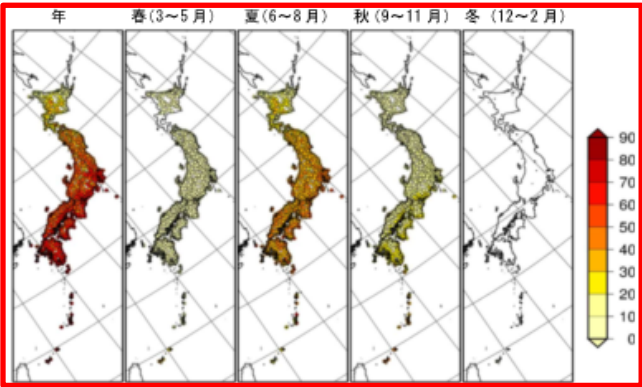
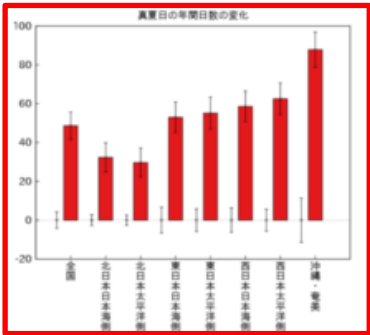


図 2.5-1 年及び季節ごとの真夏日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	48.7 ± 7.0
北日本日本海側	32.3 ± 7.5
北日本太平洋側	29.7 ± 7.5
東日本日本海側	53.0 ± 7.9
東日本太平洋側	55.1 ± 8.3
西日本日本海側	58.6 ± 7.9
西日本太平洋側	62.5 ± 8.2
沖縄・奄美	87.8 ± 9.1

図 2.5-2 全国及び地域別の真夏日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.2 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

第 2 章 6 節 図 2.6-1、図 2.6-2 及び付表 (19 ページ)
(正)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.6 夏日

図 2.6-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の夏日(最高気温が 25℃ 以上の日)の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.6-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の夏日の年間日数の差を示したものである。

夏日の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本日本海側で 55 日程度、沖縄・奄美で 67 日程度となっており、春から秋にかけて増加している(図 2.6-1、図 2.6-2)。

なお、西日本及び沖縄・奄美で真夏日(2.5 節参照)よりも増加量が少ないのは、そもそも現在気候において日最高気温が 25℃ 以上の日が多い上に、25℃ よりも 30℃ に近い日が多く、将来気候で気温が上がることにより、日最高気温が 30℃ 以上となる日は多いものの、日最高気温が 25℃ 以上 30℃ 未満となる日数は少ないためであると考えられる。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

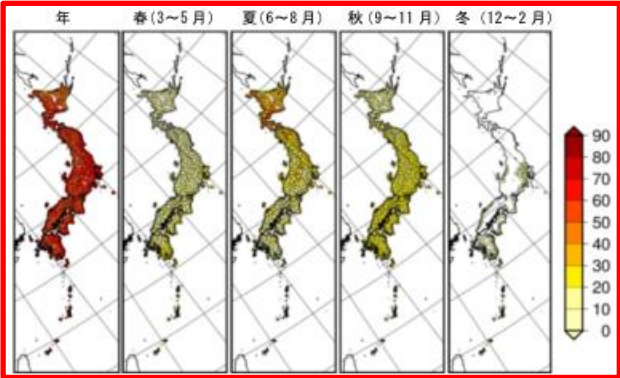
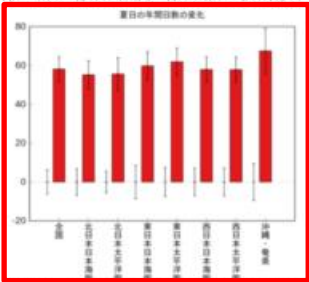


図 2.6-1 年及び季節ごとの夏日の日数の将来変化(単位: 日)
将来気候と現在気候との差(バイアス補正済み)。変化傾向(増減)が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示(現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外)。



地域	年
全国	58.1 ± 6.3
北日本日本海側	55.2 ± 7.2
北日本太平洋側	55.5 ± 8.5
東日本日本海側	59.7 ± 7.3
東日本太平洋側	61.9 ± 7.2
西日本日本海側	57.9 ± 6.5
西日本太平洋側	57.8 ± 6.6
沖縄・奄美	67.4 ± 11.5

図 2.6-2 全国及び地域別の夏日の年間日数の将来変化及び付表(単位: 日)
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅(混合分布による標準偏差【資料 2】参照)(各地域とも。左: 現在気候、右: 将来気候)を示している(バイアス補正済み)。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加(減少)する場合は赤字(青字)としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.3 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

2.6 夏日

図 2.6-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の夏日(最高気温が 25℃ 以上の日)の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.6-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の夏日の年間日数の差を示したものである。

夏日の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本日本海側で 55 日程度、沖縄・奄美で 67 日程度となっており、春から秋にかけて増加している(図 2.6-1、図 2.6-2)。

なお、西日本及び沖縄・奄美で真夏日(2.5 節参照)よりも増加量が少ないのは、そもそも現在気候において日最高気温が 25℃ 以上の日が多い上に、25℃ よりも 30℃ に近い日が多く、将来気候で気温が上がることにより、日最高気温が 30℃ 以上となる日は多いものの、日最高気温が 25℃ 以上 30℃ 未満となる日数は少ないためであると考えられる。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

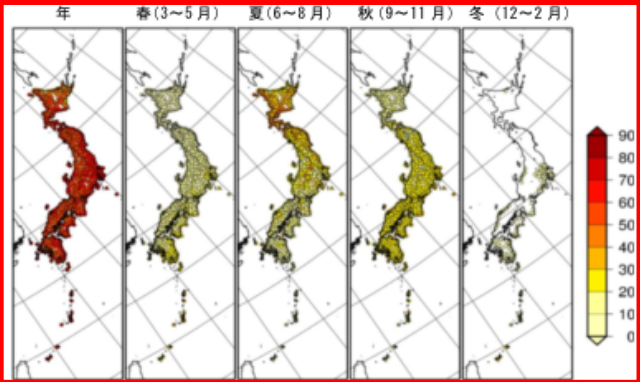
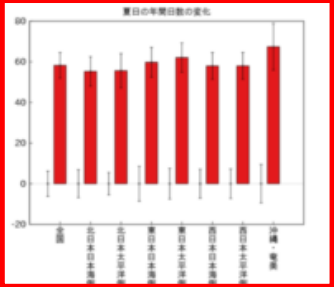


図 2.6-1 年及び季節ごとの夏日の日数の将来変化(単位:日)
将来気候と現在気候との差(バイアス補正済み)。変化傾向(増減)が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示(現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外)。



地域	年
全国	58.2 ± 6.3
北日本日本海側	55.2 ± 7.2
北日本太平洋側	55.6 ± 8.5
東日本日本海側	59.7 ± 7.3
東日本太平洋側	62.0 ± 7.2
西日本日本海側	57.9 ± 6.6
西日本太平洋側	57.9 ± 6.6
沖縄・奄美	67.4 ± 11.5

図 2.6-2 全国及び地域別の夏日の年間日数の将来変化及び付表(単位:日)
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅(混合分布による標準偏差(【資料 2】参照))(各地域とも、左:現在気候、右:将来気候)を示している(バイアス補正済み)。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼水準 90%で有意に増加(減少)する場合は赤字(青字)としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.3 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

第 2 章 7 節 図 2.7-1、図 2.7-2 及び付表 (20 ページ)
(正)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.7 熱帯夜

図 2.7-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の熱帯夜（夜間の最低気温が 25℃以上のこと²）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.7-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の熱帯夜の年間日数の差を示したものである。

熱帯夜の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本日本海側で 17 日程度、沖縄・奄美で 91 日程度となっており、沿岸部など標高の低い地域でより多くの増加がみられ、猛暑日の将来変化と同様の傾向が見られる（図 2.4-1、図 2.7-1）。北日本では主に夏、東日本以西では夏から秋にかけて増加している（図 2.7-1、図 2.7-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

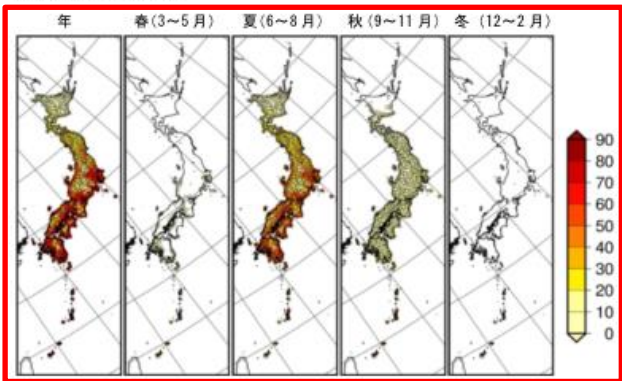
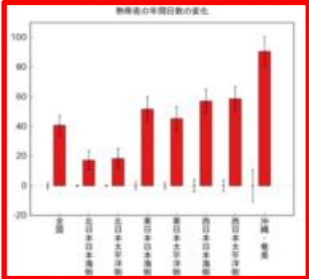


図 2.7-1 年及び季節ごとの熱帯夜の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	40.6 ± 6.7
北日本日本海側	17.2 ± 6.4
北日本太平洋側	18.3 ± 6.7
東日本日本海側	51.6 ± 8.3
東日本太平洋側	43.2 ± 8.0
西日本日本海側	57.0 ± 8.0
西日本太平洋側	58.5 ± 8.3
沖縄・奄美	90.5 ± 9.9

図 2.7-2 全国及び地域別の熱帯夜の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.4 参照。

² 本書では、最低気温が 25℃以上の日を便宜的に熱帯夜とする。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

〈第 2 章 気温の将来予測〉

2.7 熱帯夜

図 2.7-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の熱帯夜（夜間の最低気温が 25℃以上のこと²）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.7-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の熱帯夜の年間日数の差を示したものである。

熱帯夜の年間日数は、全国的に有意に増加する。その年間の増加量は北日本日本海側で 17 日程度、沖縄・奄美で 91 日程度となっており、沿岸部など標高の低い地域でより多くの増加がみられ、猛暑日の将来変化と同様の傾向が見られる（図 2.4-1、図 2.7-1）。北日本では主に夏、東日本以西では夏から秋にかけて増加している（図 2.7-1、図 2.7-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、増加量も大きくなっている。

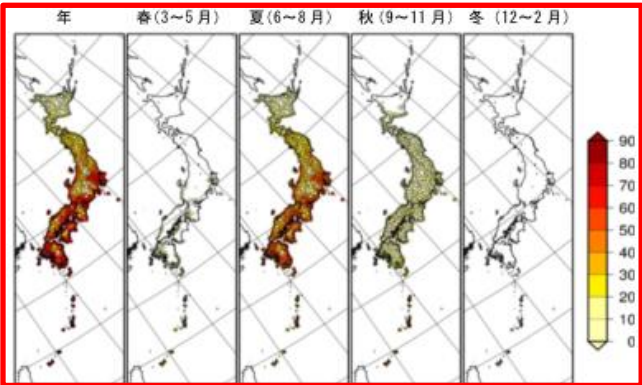
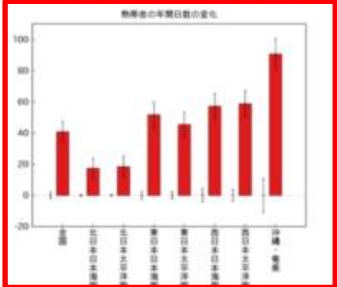


図 2.7-1 年及び季節ごとの熱帯夜の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	40.7 ± 6.7
北日本日本海側	17.3 ± 6.4
北日本太平洋側	18.4 ± 6.7
東日本日本海側	51.6 ± 8.3
東日本太平洋側	45.3 ± 8.1
西日本日本海側	57.1 ± 8.0
西日本太平洋側	58.7 ± 8.3
沖縄・奄美	90.5 ± 9.9

図 2.7-2 全国及び地域別の熱帯夜の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に増加（減少）する場合は赤字（青字）としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.4 参照。

² 本書では、最低気温が 25℃以上の日を便宜的に熱帯夜とする。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

第 2 章 8 節 図 2.8-1、図 2.8-2 及び付表 (21 ページ)
(正)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.8 冬日

図 2.8-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の冬日（最低気温が 0℃未満の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.8-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の冬日の年間日数の差を示したものである。

冬日の年間日数は、沖縄・奄美を除いて全国的に有意に減少する。その年間の減少量は北日本日本海側で 65 日程度、西日本太平洋側で 32 日程度となっており、秋から春にかけて減少している。冬の北海道では、日最低気温は上昇するものの依然として 0℃未満の日が多く、東北地方等比べて減少量は小さくなっている（図 2.8-1、図 2.8-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、減少量も大きくなっている。なお、都市化の影響は寒候期の夜間に強く現れるが、本書では、都市化の影響は評価していない（1.1 節参照）。

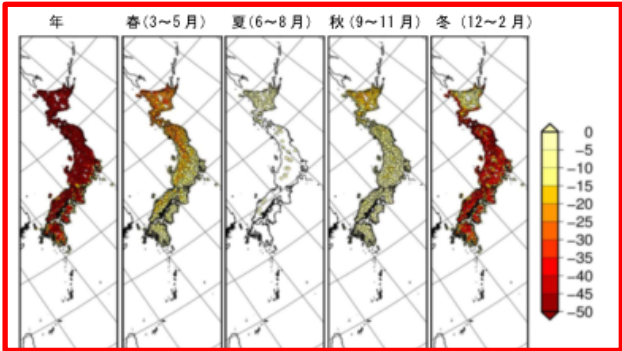
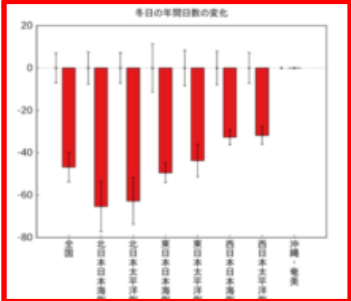


図 2.8-1 年及び季節ごとの冬日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	-46.8 ± 6.9
北日本日本海側	-65.4 ± 11.8
北日本太平洋側	-62.8 ± 11.0
東日本日本海側	-49.4 ± 4.6
東日本太平洋側	-43.7 ± 7.7
西日本日本海側	-32.7 ± 3.6
西日本太平洋側	-31.8 ± 4.2
沖縄・奄美	

図 2.8-2 全国及び地域別の冬日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差）（【資料 2】参照）（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に減少（増加）する場合は赤字（青字）としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.5 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

2.8 冬日

図 2.8-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の冬日（最低気温が 0℃未満の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.8-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の冬日の年間日数の差を示したものである。

冬日の年間日数は、沖縄・奄美を除いて全国的に有意に減少する。その年間の減少量は北日本日本海側で 65 日程度、西日本太平洋側で 32 日程度となっており、秋から春にかけて減少している。冬の北海道では、日最低気温は上昇するものの依然として 0℃未満の日が多く、東北地方等比べて減少量は小さくなっている（図 2.8-1、図 2.8-2）。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、減少量も大きくなっている。なお、都市化の影響は寒候期の夜間に強く現れるが、本書では、都市化の影響は評価していない（1.1 節参照）。

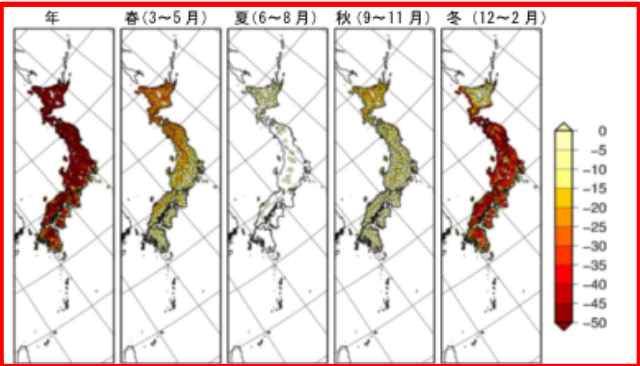
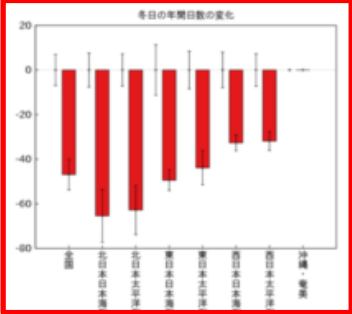


図 2.8-1 年及び季節ごとの冬日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	-46.9 ± 6.9
北日本日本海側	-65.4 ± 11.8
北日本太平洋側	-62.8 ± 11.0
東日本日本海側	-49.4 ± 4.6
東日本太平洋側	-43.8 ± 7.7
西日本日本海側	-32.7 ± 3.6
西日本太平洋側	-31.9 ± 4.2
沖縄・奄美	

図 2.8-2 全国及び地域別の冬の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に減少（増加）する場合は赤字（青字）としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合など、変化及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.5 参照。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

第 2 章 9 節 図 2.9-1、図 2.9-2 及び付表（22 ページ）
（正）

（第 2 章 気温の将来予測）

2.9 真冬日

図 2.9-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の真冬日（最高気温が 0℃未満の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.9-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の真冬日の年間日数の差を示したものである。

真冬日となるような極端に寒い日の年間日数は、北日本日本海側で 38 日程度、北日本太平洋側で 32 日程度減少するなど、沖縄・奄美を除いて全国的に有意に減少する（図 2.9-1、図 2.9-2）。これは、例えば、北日本日本海側に属する札幌の場合、現在（1981～2010 年観測値の平均値）の年間日数が 45.0 日なので、21 世紀末には約 7 日になることに相当する³。東日本及び西日本でも減少しているが、現在気候での出現日数が少ないことから、減少量も小さくなっている。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、減少量も大きくなっている。

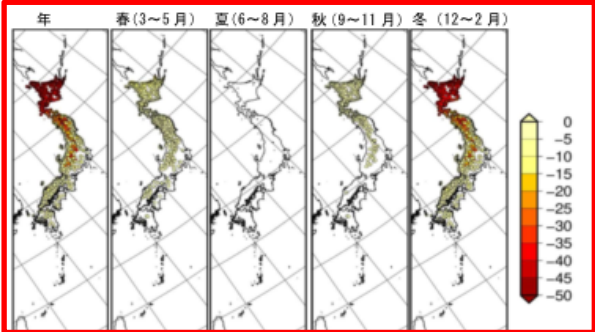
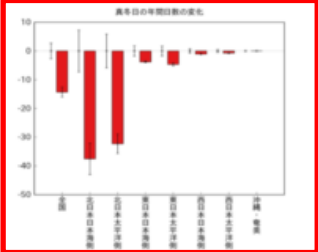


図 2.9-1 年及び季節ごとの真冬日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



地域	年
全国	-14.3 ± 1.7
北日本日本海側	-37.3 ± 5.4
北日本太平洋側	-32.3 ± 3.4
東日本日本海側	-3.8 ± 0.2
東日本太平洋側	-4.7 ± 0.5
西日本日本海側	-1.1 ± 0.1
西日本太平洋側	-0.7 ± 0.0
沖縄・奄美	

図 2.9-2 全国及び地域別の真冬日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差（【資料 2】参照））（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に減少（増加）する場合は赤字（青字）としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.6 参照。

³ あくまでも地域平均した将来変化量を単純に減じた場合である。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(第 2 章 気温の将来予測)

2.9 真冬日

図 2.9-1 は、地域気候モデルによる年及び季節ごとの現在気候と将来気候の真冬日（最高気温が 0℃未満の日）の日数の差の分布を示したものである。また、図 2.9-2 及び付表は、全国及び地域ごとにみた現在気候と将来気候の真冬日の年間日数の差を示したものである。

真冬日となるような極端に寒い日の年間日数は、北日本日本海側で 38 日程度、北日本太平洋側で 32 日程度減少するなど、沖縄・奄美を除いて全国的に有意に減少する（図 2.9-1、図 2.9-2）。これは、例えば、北日本日本海側に属する札幌の場合、現在（1981～2010 年観測値の平均値）の年間日数が 45.0 日なので、21 世紀末には約 7 日になることに相当する³。東日本及び西日本でも減少しているが、現在気候での出現日数が少ないことから、減少量も小さくなっている。

「第 8 巻」と比べて、これらの傾向は変わらないが、気温の上昇が大きいことに対応して、減少量も大きくなっている。

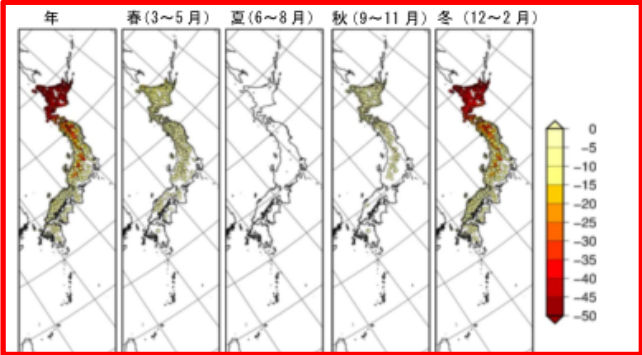


図 2.9-1 年及び季節ごとの真冬日の日数の将来変化（単位：日）
将来気候と現在気候との差（バイアス補正済み）。変化傾向（増減）が 4 メンバーとも一致した地点のみそれらの平均値を表示（現在気候及び将来気候ともに数値がゼロの場合は表示対象外）。



図 2.9-2 全国及び地域別の真冬日の年間日数の将来変化及び付表（単位：日）
将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅（混合分布による標準偏差【資料 2】参照）（各地域とも、左：現在気候、右：将来気候）を示している（バイアス補正済み）。右の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に減少（増加）する場合は赤字（青字）としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合など、変化及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。季節別の定量的な結果は【資料 4】A4.6 参照。

³ あくまでも地域平均した将来変化量を単純に減じた場合である。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.4 節 表 3.1-4 (A6 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.4 猛暑日回数

各季節・各地域において明確なバイアスはない(表 A3.1-4)。

表 A3.1-4 各地域の猛暑日回数の再現性

地点ごとのバイアス(モデル格子点値から観測値を引いたもの)の地域平均値(単位:日)。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後(詳細は A3.4 節参照)の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正(負)のバイアスがある(バイアスの絶対値が標準偏差以上)場合、赤字(青字)としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前

地域	年	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)	冬(12~2月)
全国	-1.29 (1.88)	0.00 (0.01)	-1.24 (1.87)	-0.05 (0.13)	
北日本日本海側	-0.32 (0.60)		-0.32 (0.60)	0.00 (0.01)	
北日本太平洋側	-0.22 (0.44)	0.00 (0.00)	-0.22 (0.44)	0.00 (0.01)	
東日本日本海側	-1.51 (2.03)		-1.44 (2.02)	-0.07 (0.22)	
東日本太平洋側	-2.15 (2.75)	0.00 (0.01)	-2.04 (2.75)	-0.11 (0.26)	
西日本日本海側	-1.74 (2.73)	0.00 (0.01)	-1.68 (2.72)	-0.05 (0.14)	
西日本太平洋側	-1.98 (3.01)		-1.93 (2.99)	-0.06 (0.18)	
沖縄・奄美	-0.03 (0.11)		-0.03 (0.11)		

(b) バイアス補正後

地域	年	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)	冬(12~2月)
全国	-0.25 (1.88)	0.00 (0.01)	-0.22 (1.87)	-0.03 (0.13)	
北日本日本海側	-0.08 (0.60)		-0.08 (0.60)	0.00 (0.01)	
北日本太平洋側	-0.07 (0.44)	0.00 (0.00)	-0.07 (0.44)	0.00 (0.01)	
東日本日本海側	<u>-0.07</u> (2.03)		-0.07 (2.02)	-0.01 (0.22)	
東日本太平洋側	-0.05 (2.75)	0.00 (0.01)	0.02 (2.75)	-0.07 (0.26)	
西日本日本海側	<u>-0.44</u> (2.73)	0.00 (0.01)	-0.39 (2.72)	-0.04 (0.14)	
西日本太平洋側	-0.74 (3.01)		-0.70 (2.99)	-0.05 (0.18)	
沖縄・奄美	-0.01 (0.11)		-0.01 (0.11)		

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.4 猛暑日回数

各季節・各地域において明確なバイアスはない（表 A3.1-4）。

表 A3.1-4 各地域の猛暑日回数の再現性

地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつき（標準偏差）。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（青字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前

地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	-1.29 (1.88)	0.00 (0.01)	-1.24 (1.87)	-0.05 (0.13)	
北日本日本海側	-0.32 (0.60)		-0.32 (0.60)	0.00 (0.01)	
北日本太平洋側	-0.22 (0.44)	0.00 (0.00)	-0.22 (0.44)	0.00 (0.01)	
東日本日本海側	-1.51 (2.03)		-1.44 (2.02)	-0.07 (0.22)	
東日本太平洋側	-2.15 (2.75)	0.00 (0.01)	-2.04 (2.75)	-0.11 (0.26)	
西日本日本海側	-1.74 (2.73)	0.00 (0.01)	-1.68 (2.72)	-0.05 (0.14)	
西日本太平洋側	-1.98 (3.01)		-1.93 (2.99)	-0.06 (0.18)	
沖縄・奄美	-0.03 (0.11)		-0.03 (0.11)		

(b) バイアス補正後

地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	-0.25 (1.88)	0.00 (0.01)	-0.22 (1.87)	-0.03 (0.13)	
北日本日本海側	-0.08 (0.60)		-0.08 (0.60)	0.00 (0.01)	
北日本太平洋側	-0.07 (0.44)	0.00 (0.00)	-0.07 (0.44)	0.00 (0.01)	
東日本日本海側	<u>-0.08</u> (2.03)		-0.07 (2.02)	-0.01 (0.22)	
東日本太平洋側	-0.05 (2.75)	0.00 (0.01)	0.02 (2.75)	-0.07 (0.26)	
西日本日本海側	<u>-0.43</u> (2.73)	0.00 (0.01)	-0.39 (2.72)	-0.04 (0.14)	
西日本太平洋側	-0.74 (3.01)		-0.70 (2.99)	-0.05 (0.18)	
沖縄・奄美	-0.01 (0.11)		-0.01 (0.11)		

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.5 節 表 3.1-5 (A7 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.5 真夏日日数
夏は全国的に負のバイアス、秋は東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で負のバイアスがある。
バイアス補正（詳細は A3.4 節参照）を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表 A3.1-5）。

表 A3.1-5 各地域の真夏日日数の再現性
地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（青字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	-20.65 (9.49)	-0.22 (0.40)	-17.65 (8.94)	-2.84 (2.25)	
北日本日本海側	-7.52 (5.95)	-0.07 (0.14)	-7.10 (5.95)	-0.36 (0.59)	
北日本太平洋側	-6.24 (5.46)	-0.11 (0.24)	-5.75 (5.45)	-0.37 (0.57)	
東日本日本海側	-21.65 (10.82)	-0.23 (0.46)	-19.24 (10.19)	-2.26 (2.43)	
東日本太平洋側	-23.03 (10.78)	-0.27 (0.49)	-19.36 (9.92)	-3.46 (2.62)	
西日本日本海側	-28.99 (12.11)	-0.29 (0.50)	-25.10 (11.65)	-3.64 (3.33)	
西日本太平洋側	-34.79 (12.62)	-0.25 (0.47)	-29.27 (11.55)	-5.40 (3.80)	
沖縄・奄美	-55.37 (12.86)	-1.49 (2.00)	-39.75 (10.39)	-14.54 (6.48)	

(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	-3.38 (9.49)	-0.08 (0.40)	-2.29 (8.94)	-1.09 (2.25)	
北日本日本海側	-2.42 (5.95)	-0.05 (0.14)	-2.23 (5.95)	-0.15 (0.59)	
北日本太平洋側	-2.32 (5.46)	-0.07 (0.24)	-2.06 (5.45)	-0.20 (0.57)	
東日本日本海側	-3.88 (10.82)	-0.14 (0.46)	-3.00 (10.19)	-0.83 (2.43)	
東日本太平洋側	-4.59 (10.78)	-0.07 (0.49)	-3.12 (9.92)	-1.48 (2.62)	
西日本日本海側	-3.17 (12.11)	-0.03 (0.50)	-1.73 (11.65)	-1.47 (3.33)	
西日本太平洋側	-3.82 (12.62)	-0.08 (0.47)	-1.84 (11.55)	-2.06 (3.80)	
沖縄・奄美	-5.00 (12.86)	-0.70 (2.00)	-2.20 (10.39)	-2.60 (6.48)	

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.5 真夏日日数

夏は全国的に負のバイアス、秋は東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で負のバイアスがある。
バイアス補正（詳細は A3.4 節参照）を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表 A3.1-5）。

表 A3.1-5 各地域の真夏日日数の再現性

地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（青字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	<u>-20.62</u> (9.49)	-0.22 (0.40)	<u>-17.64</u> (8.94)	<u>-2.84</u> (2.25)	
北日本日本海側	<u>-7.52</u> (5.95)	-0.07 (0.14)	<u>-7.10</u> (5.95)	-0.36 (0.59)	
北日本太平洋側	<u>-6.20</u> (5.46)	-0.11 (0.24)	<u>-5.75</u> (5.45)	-0.37 (0.57)	
東日本日本海側	<u>-21.62</u> (10.82)	-0.23 (0.46)	<u>-19.22</u> (10.19)	-2.26 (2.43)	
東日本太平洋側	<u>-22.98</u> (10.78)	-0.27 (0.49)	<u>-19.33</u> (9.92)	<u>-3.46</u> (2.62)	
西日本日本海側	<u>-28.96</u> (12.11)	-0.29 (0.50)	<u>-25.10</u> (11.65)	<u>-3.64</u> (3.33)	
西日本太平洋側	<u>-34.77</u> (12.62)	-0.25 (0.47)	<u>-29.26</u> (11.55)	<u>-5.40</u> (3.80)	
沖縄・奄美	<u>-55.19</u> (12.86)	-1.49 (2.00)	<u>-39.67</u> (10.39)	<u>-14.52</u> (6.48)	

(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	<u>-3.42</u> (9.49)	-0.08 (0.40)	<u>-2.33</u> (8.94)	-1.09 (2.25)	
北日本日本海側	<u>-2.41</u> (5.95)	-0.05 (0.14)	<u>-2.22</u> (5.95)	-0.15 (0.59)	
北日本太平洋側	<u>-2.31</u> (5.46)	-0.07 (0.24)	-2.06 (5.45)	-0.20 (0.57)	
東日本日本海側	-3.88 (10.82)	-0.14 (0.46)	-3.00 (10.19)	-0.83 (2.43)	
東日本太平洋側	<u>-4.68</u> (10.78)	-0.07 (0.49)	<u>-3.21</u> (9.92)	-1.48 (2.62)	
西日本日本海側	<u>-3.18</u> (12.11)	<u>-0.04</u> (0.50)	<u>-1.74</u> (11.65)	-1.47 (3.33)	
西日本太平洋側	<u>-3.92</u> (12.62)	<u>-0.07</u> (0.47)	<u>-1.93</u> (11.55)	-2.06 (3.80)	
沖縄・奄美	<u>-5.01</u> (12.86)	-0.70 (2.00)	-2.20 (10.39)	-2.60 (6.48)	

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.6 節 表 3.1-6 (A8 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.6 夏日日数

春から秋にかけておおむね全国的に負のバイアスがある。バイアス補正 (詳細は A3.4 節参照) を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている (表 A3.1-6)。

表 A3.1-6 各地域の夏日日数の再現性

地点ごとのバイアス (モデル格子点値から観測値を引いたもの) の地域平均値 (単位: 日)。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後 (詳細は A3.4 節参照) の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正 (負) のバイアスがある (バイアスの絶対値が標準偏差以上) 場合、赤字 (青字) としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春 (3～5 月)	夏 (6～8 月)	秋 (9～11 月)	冬 (12～2 月)
全国	<u>-23.64</u> (10.79)	-4.53 (3.01)	<u>-12.03</u> (7.67)	<u>-7.10</u> (4.80)	<u>-0.05</u> (0.05)
北日本日本海側	<u>-15.19</u> (11.73)	-1.70 (1.64)	<u>-10.85</u> (10.09)	<u>-2.68</u> (3.59)	
北日本太平洋側	<u>-10.29</u> (11.04)	-1.75 (1.68)	<u>-6.27</u> (9.53)	-2.30 (3.42)	
東日本日本海側	<u>-21.46</u> (11.72)	-4.42 (3.04)	<u>-8.87</u> (8.86)	<u>-8.29</u> (6.14)	
東日本太平洋側	<u>-28.76</u> (11.38)	-4.76 (3.46)	<u>-16.26</u> (8.07)	<u>-7.83</u> (5.16)	0.00 (0.00)
西日本日本海側	<u>-28.74</u> (9.14)	-6.81 (3.61)	<u>-12.24</u> (5.56)	<u>-9.73</u> (5.61)	
西日本太平洋側	<u>-35.52</u> (9.63)	-7.55 (4.20)	<u>-15.95</u> (4.87)	<u>-12.11</u> (5.69)	0.00 (0.01)
沖縄・奄美	<u>-28.40</u> (13.86)	<u>-9.65</u> (8.11)	<u>-2.41</u> (1.94)	<u>-13.66</u> (5.89)	<u>-2.81</u> (2.56)

(b) バイアス補正後					
地域	年	春 (3～5 月)	夏 (6～8 月)	秋 (9～11 月)	冬 (12～2 月)
全国	<u>-0.86</u> (10.79)	<u>-1.36</u> (3.01)	<u>0.39</u> (7.67)	<u>-0.07</u> (4.80)	-0.02 (0.05)
北日本日本海側	<u>-1.05</u> (11.73)	-0.76 (1.64)	<u>-0.12</u> (10.09)	-0.24 (3.59)	
北日本太平洋側	<u>-2.64</u> (11.04)	-0.80 (1.68)	<u>-1.35</u> (9.53)	-0.56 (3.42)	
東日本日本海側	<u>0.86</u> (11.72)	-1.43 (3.04)	2.01 (8.86)	-0.06 (6.14)	
東日本太平洋側	<u>-0.92</u> (11.38)	<u>-1.55</u> (3.46)	<u>0.76</u> (8.07)	<u>-0.35</u> (5.16)	0.00 (0.00)
西日本日本海側	<u>-0.08</u> (9.14)	-1.72 (3.61)	<u>1.05</u> (5.56)	<u>0.40</u> (5.61)	<u>0.01</u> (0.00)
西日本太平洋側	<u>-0.03</u> (9.63)	<u>-2.06</u> (4.20)	<u>1.11</u> (4.87)	<u>0.59</u> (5.69)	0.00 (0.01)
沖縄・奄美	-0.50 (13.86)	-0.62 (8.11)	0.57 (1.94)	-0.23 (5.89)	-1.01 (2.56)

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.6 夏日日数

春から秋にかけておおむね全国的に負のバイアスがある。バイアス補正（詳細は A3.4 節参照）を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表 A3.1-6）。

表 A3.1-6 各地域の夏日日数の再現性
地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（青字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	-23.41 (10.79)	-4.53 (3.01)	-11.94 (7.67)	-7.09 (4.80)	-0.05 (0.05)
北日本日本海側	-15.11 (11.73)	-1.70 (1.64)	-10.79 (10.09)	-2.69 (3.59)	
北日本太平洋側	-10.19 (11.04)	-1.75 (1.68)	-6.22 (9.53)	-2.30 (3.42)	
東日本日本海側	-21.15 (11.72)	-4.42 (3.04)	-8.77 (8.86)	-8.31 (6.14)	
東日本太平洋側	-28.52 (11.38)	-4.76 (3.46)	-16.16 (8.07)	-7.81 (5.16)	0.00 (0.00)
西日本日本海側	-28.46 (9.14)	-6.81 (3.61)	-12.14 (5.56)	-9.70 (5.61)	
西日本太平洋側	-35.17 (9.63)	-7.55 (4.20)	-15.86 (4.87)	-12.08 (5.69)	0.00 (0.01)
沖縄・奄美	-27.12 (13.86)	-9.49 (8.11)	-2.08 (1.94)	-13.52 (5.89)	-2.81 (2.56)
(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	-0.97 (10.79)	-1.37 (3.01)	0.31 (7.67)	-0.09 (4.80)	-0.02 (0.05)
北日本日本海側	-1.09 (11.73)	-0.76 (1.64)	-0.16 (10.09)	-0.24 (3.59)	
北日本太平洋側	-2.65 (11.04)	-0.80 (1.68)	-1.37 (9.53)	-0.56 (3.42)	
東日本日本海側	0.87 (11.72)	-1.43 (3.04)	2.01 (8.86)	-0.06 (6.14)	
東日本太平洋側	-1.15 (11.38)	-1.56 (3.46)	0.60 (8.07)	-0.41 (5.16)	0.00 (0.00)
西日本日本海側	-0.14 (9.14)	-1.72 (3.61)	1.01 (5.56)	0.38 (5.61)	0.01 (0.00)
西日本太平洋側	-0.22 (9.63)	-2.07 (4.20)	0.99 (4.87)	0.54 (5.69)	0.00 (0.01)
沖縄・奄美	-0.50 (13.86)	-0.62 (8.11)	0.57 (1.94)	-0.23 (5.89)	-1.01 (2.56)

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.7 節 表 3.1-7 (A9 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.7 熱帯夜日数
春の沖縄・奄美で正のバイアスがある。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている(表A3.1-7)。

表 A3.1-7 各地域の熱帯夜日数の再現性
地点ごとのバイアス(モデル格子点値から観測値を引いたもの)の地域平均値(単位:日)。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後(詳細は A3.4 節参照)の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正(負)のバイアスがある(バイアスの絶対値が標準偏差以上)場合、赤字(青字)としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)	冬(12~2月)
全国	0.76(2.77)	0.04(0.03)	0.64(2.68)	0.08(0.44)	
北日本日本海側	0.03(0.32)		0.03(0.31)	0.01(0.01)	
北日本太平洋側	0.04(0.22)		0.04(0.22)	0.00(0.00)	
東日本日本海側	-1.17(3.17)		-1.10(3.15)	-0.07(0.30)	
東日本太平洋側	2.66(2.73)		2.54(2.70)	0.13(0.36)	
西日本日本海側	0.40(4.89)		0.42(4.90)	-0.02(0.66)	
西日本太平洋側	0.17(4.77)		0.18(4.67)	0.01(0.72)	
沖縄・奄美	7.65(14.37)	2.16(1.99)	2.01(10.61)	3.29(5.83)	

(b) バイアス補正後					
地域	年	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)	冬(12~2月)
全国	0.87(2.77)	-0.02(0.03)	0.67(2.68)	0.20(0.44)	
北日本日本海側	0.02(0.32)		0.02(0.31)	0.00(0.01)	
北日本太平洋側	0.06(0.22)		0.05(0.22)	0.01(0.00)	
東日本日本海側	0.73(3.17)		0.68(3.15)	0.04(0.30)	
東日本太平洋側	1.29(2.73)		0.97(2.70)	0.31(0.36)	
西日本日本海側	1.29(4.89)		1.13(4.90)	0.14(0.66)	
西日本太平洋側	1.64(4.77)		1.12(4.67)	0.51(0.72)	
沖縄・奄美	2.02(14.37)	-1.00(1.99)	1.75(10.61)	0.69(5.83)	

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.7 熱帯夜日数

春の沖縄・奄美で正のバイアスがある。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表A3.1-7）。

表 A3.1-7 各地域の熱帯夜日数の再現性
地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（青字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	<u>0.79</u> (2.77)	0.04 (0.03)	<u>0.65</u> (2.68)	0.08 (0.44)	
北日本日本海側	0.03 (0.32)		0.03 (0.31)	0.01 (0.01)	
北日本太平洋側	0.04 (0.22)		0.04 (0.22)	0.00 (0.00)	
東日本日本海側	<u>-1.16</u> (3.17)		-1.10 (3.15)	-0.07 (0.30)	
東日本太平洋側	<u>2.69</u> (2.73)		<u>2.55</u> (2.70)	0.13 (0.36)	
西日本日本海側	<u>0.43</u> (4.89)		<u>0.44</u> (4.90)	-0.02 (0.66)	
西日本太平洋側	<u>0.21</u> (4.77)		<u>0.19</u> (4.67)	0.01 (0.72)	
沖縄・奄美	<u>8.38</u> (14.37)	2.16 (1.99)	<u>2.32</u> (10.61)	<u>3.33</u> (5.83)	

(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	<u>0.88</u> (2.77)	-0.02 (0.03)	0.67 (2.68)	0.20 (0.44)	
北日本日本海側	0.02 (0.32)		0.02 (0.31)	0.00 (0.01)	
北日本太平洋側	0.06 (0.22)		0.05 (0.22)	0.01 (0.00)	
東日本日本海側	0.73 (3.17)		0.68 (3.15)	0.04 (0.30)	
東日本太平洋側	<u>1.32</u> (2.73)		<u>0.99</u> (2.70)	<u>0.32</u> (0.36)	
西日本日本海側	<u>1.28</u> (4.89)		<u>1.12</u> (4.90)	<u>0.15</u> (0.66)	
西日本太平洋側	<u>1.65</u> (4.77)		1.12 (4.67)	0.51 (0.72)	
沖縄・奄美	2.02 (14.37)	-1.00 (1.99)	1.75 (10.61)	0.69 (5.83)	

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.8 節 表 3.1-8 (A10 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.8 冬日日数

冬の北日本、東日本日本海側で正のバイアスがある。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている (表 A3.1-8)。

表 A3.1-8 各地域の冬日日数の再現性

地点ごとのバイアス (モデル格子点値から観測値を引いたもの) の地域平均値 (単位: 日)。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後 (詳細は A3.4 節参照) の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正 (負) のバイアスがある (バイアスの絶対値が標準偏差以上) 場合、青字 (赤字) としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春 (3~5 月)	夏 (6~8 月)	秋 (9~11 月)	冬 (12~2 月)
全国	8.94 (11.50)	1.30 (4.55)	-0.02 (0.06)	1.21 (2.60)	6.46 (6.96)
北日本日本海側	14.13 (10.43)	3.77 (5.32)	-0.03 (0.12)	4.18 (4.43)	6.29 (4.09)
北日本太平洋側	3.40 (10.60)	-1.56 (5.51)	-0.07 (0.18)	0.35 (4.83)	4.70 (3.86)
東日本日本海側	25.54 (14.71)	4.64 (5.00)		1.50 (0.97)	19.44 (10.56)
東日本太平洋側	9.38 (12.72)	2.62 (4.86)	0.00 (0.01)	1.58 (2.37)	5.19 (8.17)
西日本日本海側	5.54 (12.34)	0.02 (3.53)		-0.06 (0.85)	5.59 (9.79)
西日本太平洋側	7.24 (11.52)	0.44 (3.62)		-0.05 (1.05)	6.83 (8.75)
沖縄・奄美					

(b) バイアス補正後					
地域	年	春 (3~5 月)	夏 (6~8 月)	秋 (9~11 月)	冬 (12~2 月)
全国	0.25 (11.50)	0.96 (4.55)	0.01 (0.06)	0.25 (2.60)	-1.11 (6.96)
北日本日本海側	0.81 (10.43)	1.01 (5.32)	0.02 (0.12)	0.31 (4.43)	-0.77 (4.09)
北日本太平洋側	-0.36 (10.60)	1.27 (5.51)	0.00 (0.18)	-0.11 (4.83)	-1.72 (3.86)
東日本日本海側	3.01 (14.71)	1.77 (5.00)		0.86 (0.97)	0.32 (10.56)
東日本太平洋側	-0.13 (12.72)	1.02 (4.86)	0.00 (0.01)	0.04 (2.37)	-1.30 (8.17)
西日本日本海側	0.22 (12.34)	0.71 (3.53)		0.47 (0.85)	-1.07 (9.79)
西日本太平洋側	-0.10 (11.52)	0.35 (3.62)		0.45 (1.05)	-1.20 (8.75)
沖縄・奄美					

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.8 冬日日数

冬の北日本、東日本日本海側で正のバイアスがある。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表 A3.1-8）。

表 A3.1-8 各地域の冬日日数の再現性
地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、赤字（赤字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	9.26 (11.50)	1.33 (4.55)	−0.02 (0.06)	1.24 (2.60)	6.56 (6.96)
北日本日本海側	14.69 (10.43)	3.83 (5.32)	−0.03 (0.12)	4.26 (4.43)	6.40 (4.09)
北日本太平洋側	3.83 (10.60)	−1.51 (5.51)	−0.07 (0.18)	0.40 (4.83)	4.81 (3.86)
東日本日本海側	25.81 (14.71)	4.69 (5.00)		1.51 (0.97)	19.56 (10.56)
東日本太平洋側	9.63 (12.72)	2.63 (4.86)	0.00 (0.01)	1.59 (2.37)	5.29 (8.17)
西日本日本海側	5.77 (12.34)	0.03 (3.53)		−0.06 (0.85)	5.68 (9.79)
西日本太平洋側	7.42 (11.52)	0.46 (3.62)		−0.04 (1.05)	6.91 (8.75)
沖縄・奄美					

(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5 月）	夏（6～8 月）	秋（9～11 月）	冬（12～2 月）
全国	0.30 (11.50)	0.98 (4.55)	0.01 (0.06)	0.27 (2.60)	−1.10 (6.96)
北日本日本海側	0.86 (10.43)	1.03 (5.32)	0.02 (0.12)	0.34 (4.43)	−0.78 (4.09)
北日本太平洋側	−0.33 (10.60)	1.28 (5.51)	0.00 (0.18)	−0.09 (4.83)	−1.72 (3.86)
東日本日本海側	3.01 (14.71)	1.77 (5.00)		0.86 (0.97)	0.32 (10.56)
東日本太平洋側	−0.03 (12.72)	1.07 (4.86)	0.01 (0.01)	0.07 (2.37)	−1.29 (8.17)
西日本日本海側	0.25 (12.34)	0.72 (3.53)		0.47 (0.85)	−1.05 (9.79)
西日本太平洋側	−0.06 (11.52)	0.56 (3.62)		0.45 (1.05)	−1.17 (8.75)
沖縄・奄美					

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 3】 A3.1.9 節 表 3.1-9 (A11 ページ)
(正)

(資料 3)

A3.1.9 真冬日数

全国的に正のバイアスがあり、北・東日本で大きくなっている。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている (表 A3.1-9)。

表 A3.1-9 各地域の真冬日数の再現性

地点ごとのバイアス (モデル格子点値から観測値を引いたもの) の地域平均値 (単位: 日)。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後 (詳細は A3.4 節参照) の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正 (負) のバイアスがある (バイアスの絶対値が標準偏差以上) 場合、赤字 (赤字) としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前

地域	年	春 (3～5 月)	夏 (6～8 月)	秋 (9～11 月)	冬 (12～2 月)
全国	19.32 (5.31)	2.49 (1.17)		7.34 (0.47)	15.53 (4.41)
北日本日本海側	35.14 (12.04)	5.99 (3.10)		3.64 (1.57)	25.62 (9.46)
北日本太平洋側	33.19 (10.51)	4.26 (2.57)		3.00 (0.93)	25.97 (8.60)
東日本日本海側	15.47 (3.61)	1.18 (0.18)		0.12 (0.00)	13.99 (3.50)
東日本太平洋側	17.77 (2.90)	1.99 (0.49)		0.53 (0.07)	15.29 (2.59)
西日本日本海側	0.12 (1.12)	0.36 (0.05)		0.02 (0.01)	3.82 (1.10)
西日本太平洋側	5.89 (0.91)	0.35 (0.05)		0.03 (0.00)	5.31 (0.89)
沖縄・奄美					

(b) バイアス補正後

地域	年	春 (3～5 月)	夏 (6～8 月)	秋 (9～11 月)	冬 (12～2 月)
全国	-1.08 (5.31)	-0.25 (1.17)		-0.13 (0.47)	-0.73 (4.41)
北日本日本海側	-2.29 (12.04)	-0.64 (3.10)		-0.47 (1.57)	-1.25 (9.46)
北日本太平洋側	-2.77 (10.51)	-0.71 (2.57)		-0.22 (0.93)	-1.89 (8.60)
東日本日本海側	-0.43 (3.61)	0.02 (0.18)		0.00 (0.00)	-0.44 (3.50)
東日本太平洋側	-0.38 (2.90)	-0.01 (0.49)		-0.01 (0.07)	-0.35 (2.59)
西日本日本海側	-0.08 (1.12)	0.01 (0.05)		0.00 (0.01)	-0.09 (1.10)
西日本太平洋側	-0.15 (0.91)	0.00 (0.05)			-0.17 (0.89)
沖縄・奄美					

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 3)

A3.1.9 真冬日数

全国的に正のバイアスがあり、北・東日本で大きくなっている。バイアス補正を行うことにより、おおむねバイアスは解消されている（表 A3.1-9）。

表 A3.1-9 各地域の真冬日数の再現性
地点ごとのバイアス（モデル格子点値から観測値を引いたもの）の地域平均値（単位：日）。(a)がバイアス補正前の比較、(b)がバイアス補正後（詳細は A3.4 節参照）の比較結果。括弧内の数値は、各地域内の地点間のばらつきの標準偏差。正（負）のバイアスがある（バイアスの絶対値が標準偏差以上）場合、青字（赤字）としている。観測値及び地域気候モデルの出現日数がゼロの場合など、バイアス及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

(a) バイアス補正前					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	19.44 (5.31)	2.49 (1.17)		1.35 (0.47)	15.57 (4.41)
北日本日本海側	35.42 (12.04)	6.02 (3.10)		3.65 (1.57)	25.69 (9.46)
北日本太平洋側	33.38 (10.51)	4.27 (2.57)		3.01 (0.93)	26.05 (8.60)
東日本日本海側	15.28 (3.61)	1.18 (0.18)		0.13 (0.00)	13.98 (3.50)
東日本太平洋側	17.84 (2.90)	1.99 (0.49)		0.53 (0.07)	15.32 (2.59)
西日本日本海側	6.24 (1.12)	0.36 (0.05)		0.02 (0.01)	5.86 (1.10)
西日本太平洋側	5.91 (0.91)	0.35 (0.05)		0.03 (0.00)	5.52 (0.89)
沖縄・奄美					

(b) バイアス補正後					
地域	年	春（3～5月）	夏（6～8月）	秋（9～11月）	冬（12～2月）
全国	-1.05 (5.31)	-0.24 (1.17)		-0.12 (0.47)	-0.71 (4.41)
北日本日本海側	-2.19 (12.04)	-0.61 (3.10)		-0.45 (1.57)	-1.20 (9.46)
北日本太平洋側	-2.70 (10.51)	-0.70 (2.57)		-0.21 (0.93)	-1.84 (8.60)
東日本日本海側	-0.43 (3.61)	0.02 (0.18)		0.00 (0.00)	-0.44 (3.50)
東日本太平洋側	-0.35 (2.90)	-0.01 (0.49)		-0.01 (0.07)	-0.33 (2.59)
西日本日本海側	-0.08 (1.12)	0.01 (0.05)		0.00 (0.01)	-0.09 (1.10)
西日本太平洋側	-0.15 (0.91)	0.00 (0.05)			-0.16 (0.89)
沖縄・奄美					

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.1 節 図 4.1 及び付表 (A16 ページ)
(正)

(資料 4)

【資料 4】 将来変化の詳細

A4.1 猛暑日回数

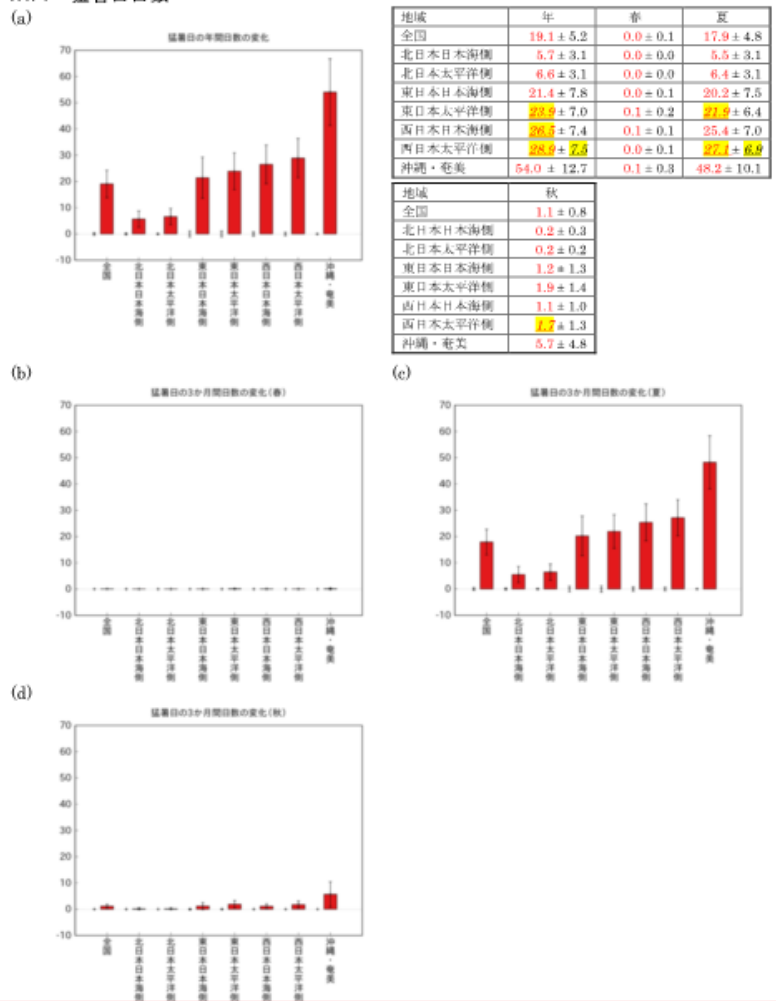


図 A4.1 及び付表 地域別の猛暑日回数の変化(単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅(混合分布による標準偏差【資料 2】参照)(各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候)を示している。
(a): 年、(b): 春(3~5月)、(c): 夏(6~8月)、(d): 秋(9~11月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量 ± 標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加(減少)する場合は赤字(青字)としている。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

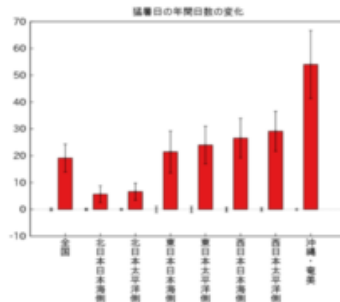
(誤)

(資料 4)

【資料 4】将来変化の詳細

A4.1 猛暑日回数

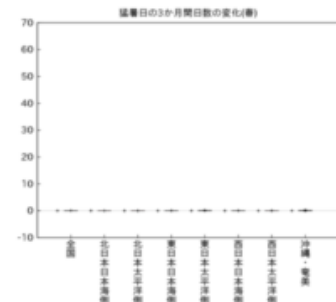
(a)



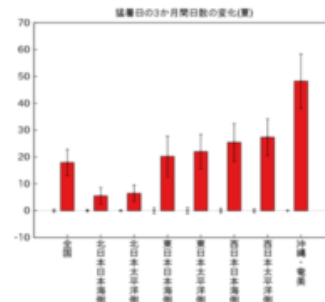
地域	年	春	夏
全国	19.1 ± 5.2	0.0 ± 0.1	17.9 ± 4.8
北日本太平洋側	5.7 ± 3.1	0.0 ± 0.0	5.5 ± 3.1
北日本太平洋側	6.6 ± 3.1	0.0 ± 0.0	6.4 ± 3.1
東日本太平洋側	21.4 ± 7.8	0.0 ± 0.1	20.2 ± 7.5
東日本太平洋側	24.0 ± 7.0	0.1 ± 0.2	22.0 ± 6.4
西日本太平洋側	26.6 ± 7.4	0.1 ± 0.1	25.4 ± 7.0
西日本太平洋側	29.1 ± 7.4	0.0 ± 0.1	27.3 ± 6.8
沖縄・奄美	54.0 ± 12.7	0.1 ± 0.3	48.2 ± 10.1

地域	秋
全国	1.1 ± 0.8
北日本太平洋側	0.2 ± 0.3
北日本太平洋側	0.2 ± 0.2
東日本太平洋側	1.2 ± 1.3
東日本太平洋側	1.9 ± 1.4
西日本太平洋側	1.1 ± 1.0
西日本太平洋側	1.8 ± 1.3
沖縄・奄美	5.7 ± 4.8

(b)



(c)



(d)

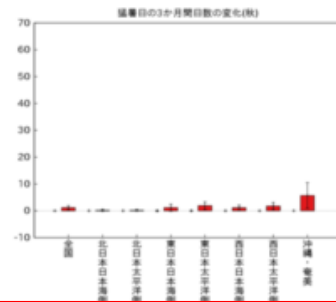


図 A4.1 及び付表 地域別の猛暑日回数の変化(単位:日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅(混合分布による標準偏差【資料 2】参照)(各地域とも、左:現在気候、右:将来気候)を示している。(a):年、(b):春(3~5月)、(c):夏(6~8月)、(d):秋(9~11月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90%で有意に増加(減少)する場合は赤字(青字)としている。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.2 節 図 4.2 及び付表 (A17 ページ)
(正)

(資料 4)

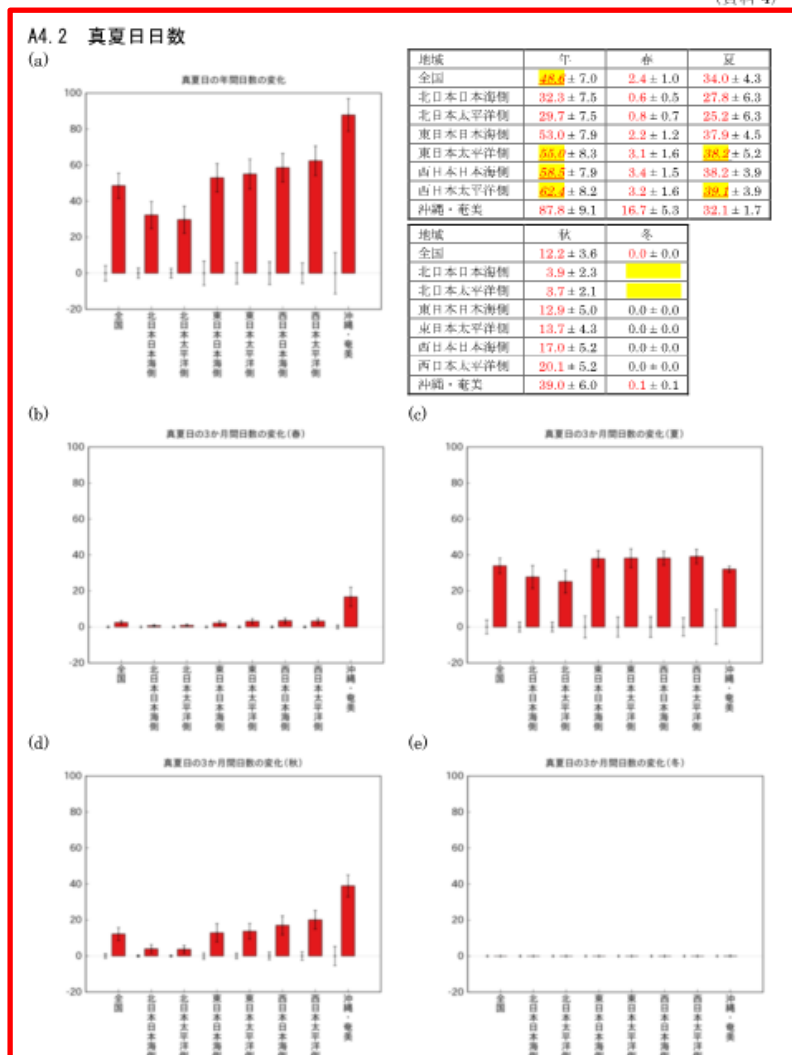


図 A4.2 及び付表 地域別の真夏日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量 ± 標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 4)

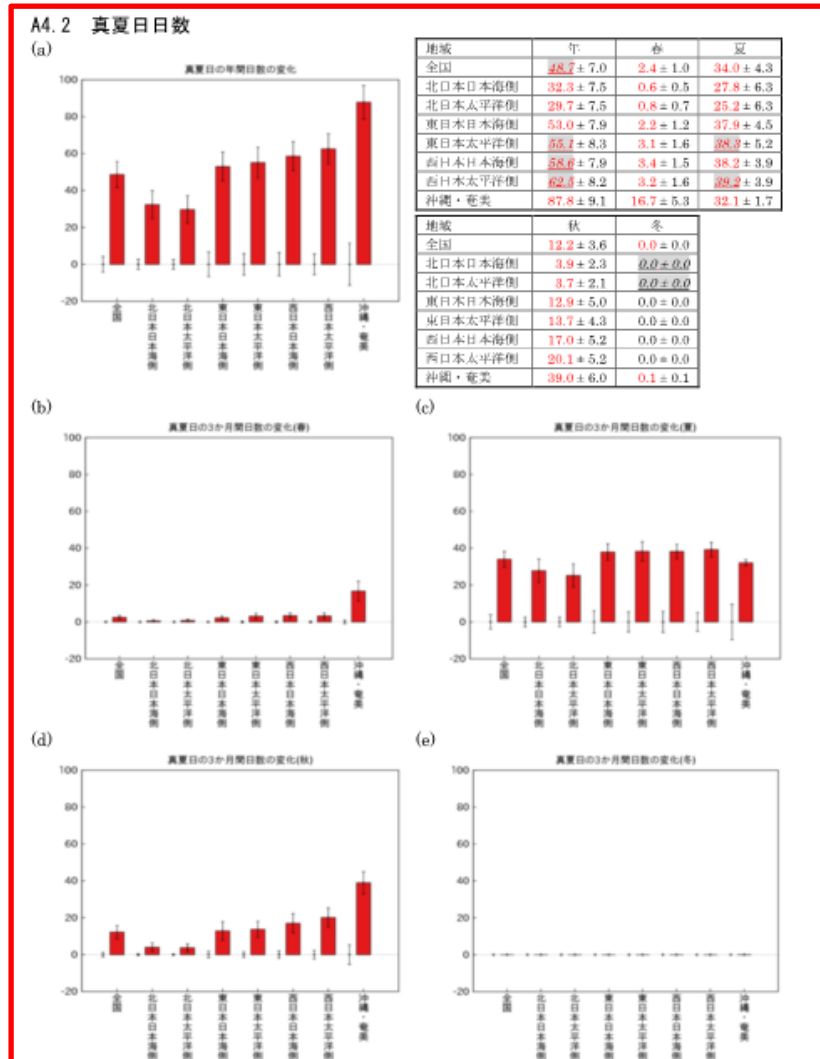


図 A4.2 及び付表 地域別の真夏日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。
(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。

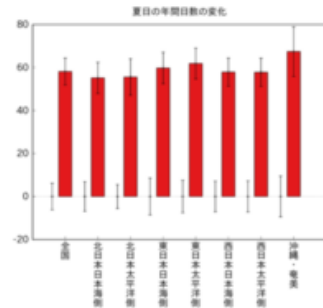
※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.3 節 図 4.3 及び付表 (A18 ページ)
(正)

(資料 4)

A4.3 夏日日数

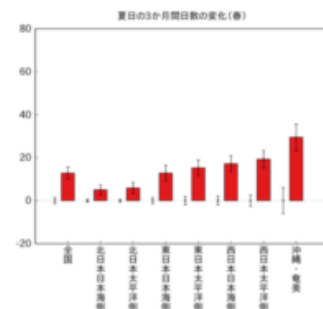
(a)



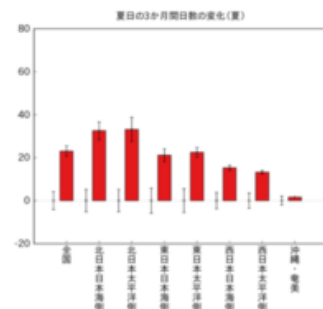
地域	年	春	夏
全国	55.2 ± 6.3	12.8 ± 2.8	23.0 ± 2.4
北日本日本海側	55.2 ± 7.2	5.0 ± 2.2	32.0 ± 4.1
北日本太平洋側	53.5 ± 8.5	5.9 ± 2.6	33.2 ± 5.6
東日本日本海側	59.7 ± 7.3	12.8 ± 3.7	21.1 ± 2.9
東日本太平洋側	62.9 ± 7.2	15.3 ± 3.6	22.5 ± 3.2
西日本日本海側	57.9 ± 6.5	17.2 ± 3.7	15.3 ± 1.2
西日本太平洋側	57.8 ± 6.6	19.3 ± 4.0	23.2 ± 0.9
沖縄・奄美	67.4 ± 11.5	29.5 ± 6.2	1.6 ± 0.0

地域	秋	冬
全国	21.9 ± 3.6	0.4 ± 0.2
北日本日本海側	17.6 ± 3.7	0.0 ± 0.0
北日本太平洋側	16.5 ± 3.8	0.0 ± 0.0
東日本日本海側	25.7 ± 4.1	0.1 ± 0.2
東日本太平洋側	24.0 ± 4.2	0.1 ± 0.2
西日本日本海側	25.3 ± 4.5	0.1 ± 0.1
西日本太平洋側	23.5 ± 4.5	0.1 ± 0.2
沖縄・奄美	19.7 ± 2.7	16.6 ± 6.1

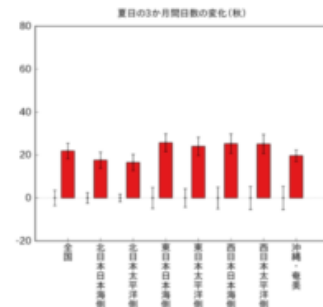
(b)



(c)



(d)



(e)

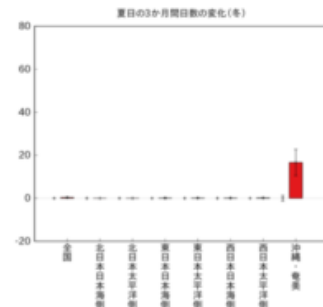


図 A4.3 及び付表 地域別の夏日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。
(a): 年、(b): 春 (3～5 月)、(c): 夏 (6～8 月)、(d): 秋 (9～11 月)、(e): 冬 (12～2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。

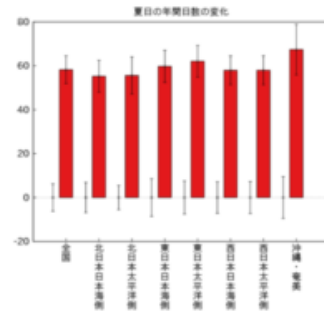
※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 4)

A4.3 夏日日数

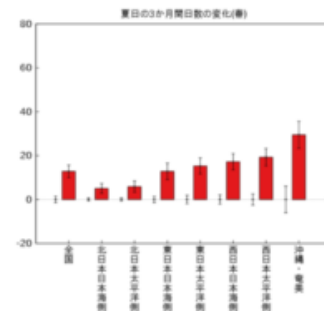
(a)



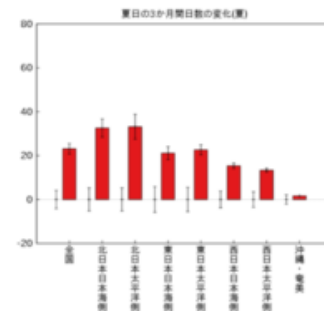
地域	年	春	夏
全国	58.2 ± 6.3	12.8 ± 2.8	22.1 ± 2.4
北日本日本海側	55.2 ± 7.2	5.0 ± 2.2	32.6 ± 4.1
北日本太平洋側	55.6 ± 7.5	5.9 ± 2.6	33.2 ± 5.6
東日本日本海側	59.7 ± 7.3	12.8 ± 3.7	21.1 ± 2.9
東日本太平洋側	62.0 ± 7.2	15.3 ± 3.6	22.6 ± 2.3
西日本日本海側	57.9 ± 6.2	17.2 ± 3.7	15.3 ± 1.2
西日本太平洋側	57.9 ± 6.6	19.3 ± 4.0	13.3 ± 0.9
沖縄・奄美	67.4 ± 11.5	29.5 ± 6.2	1.6 ± 0.0

地域	秋	冬
全国	21.9 ± 3.6	0.4 ± 0.2
北日本日本海側	17.6 ± 3.7	0.0 ± 0.0
北日本太平洋側	16.5 ± 3.8	0.0 ± 0.0
東日本日本海側	25.7 ± 4.1	0.1 ± 0.2
東日本太平洋側	24.1 ± 4.2	0.1 ± 0.2
西日本日本海側	25.3 ± 4.5	0.1 ± 0.1
西日本太平洋側	25.2 ± 4.5	0.1 ± 0.2
沖縄・奄美	19.7 ± 2.7	16.6 ± 6.1

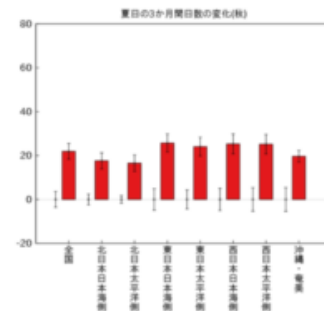
(b)



(c)



(d)



(e)

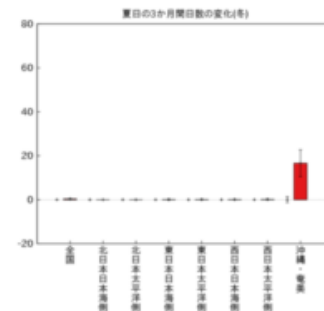


図 A4.3 及び付表 地域別の夏日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。
 (a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量 ± 標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.4 節 図 4.4 及び付表 (A19 ページ)
(正)

(資料 4)

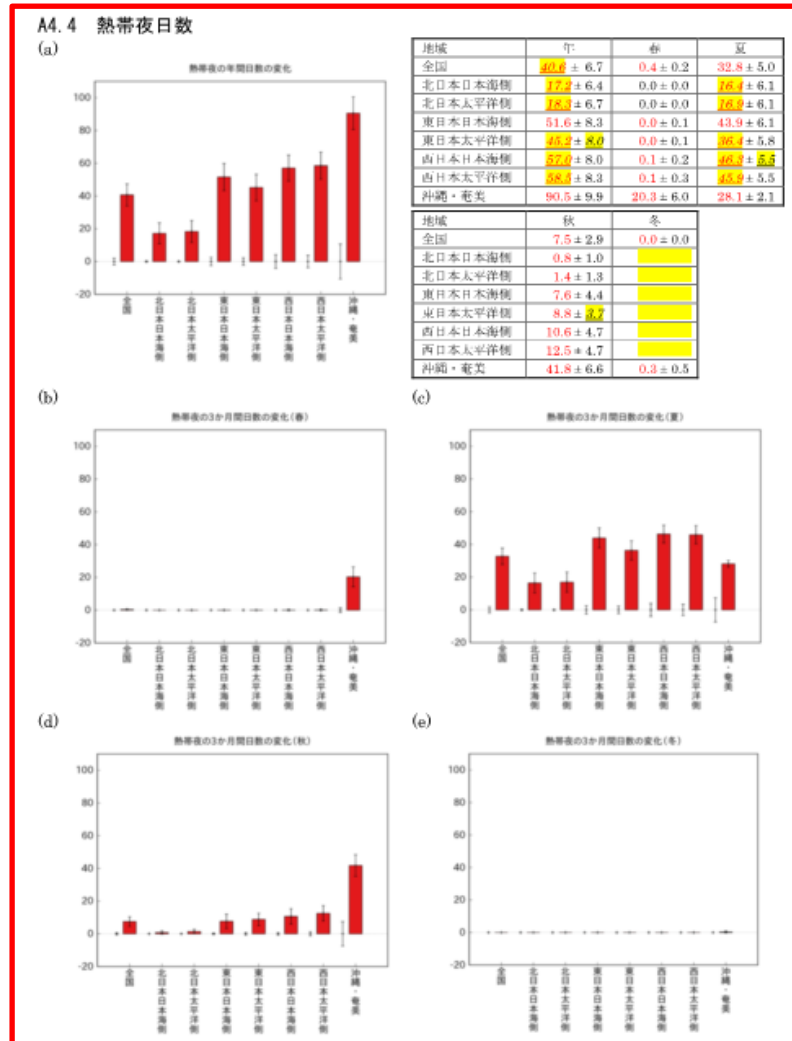


図 A4.4 及び付表 地域別の熱帯夜日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】 参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はこれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 4)

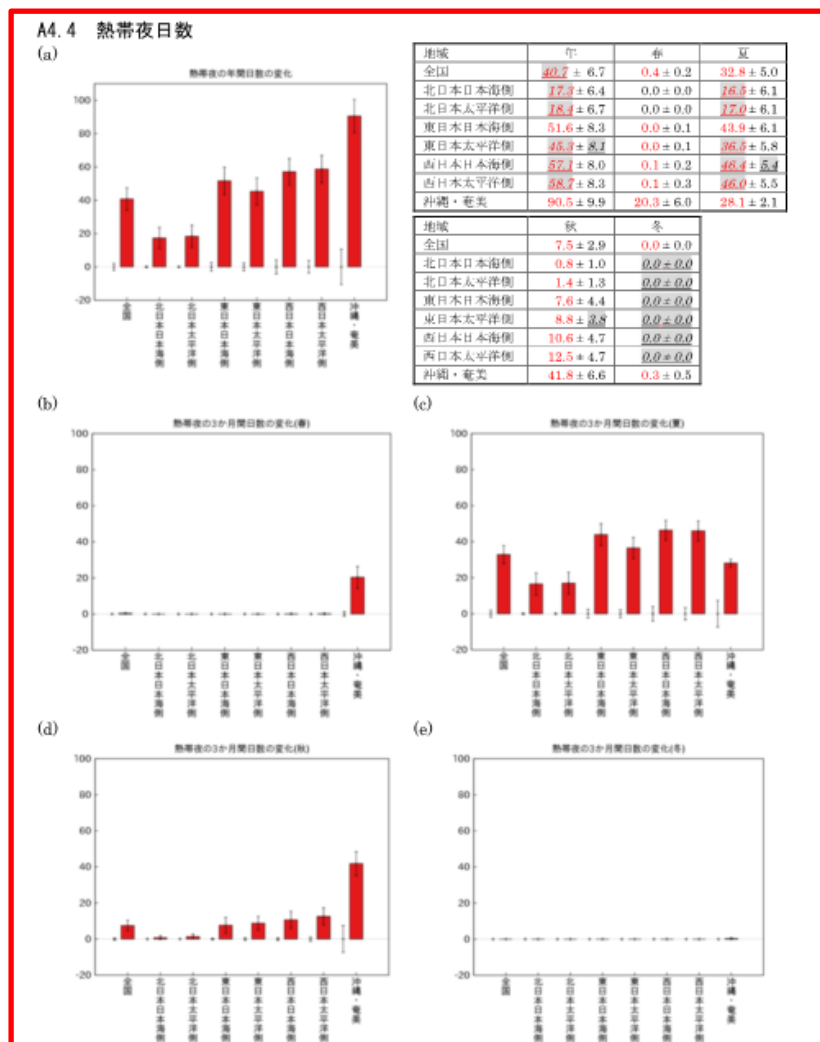


図 A4.4 及び付表 地域別の熱帯夜日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量 ± 標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (青字) としている。

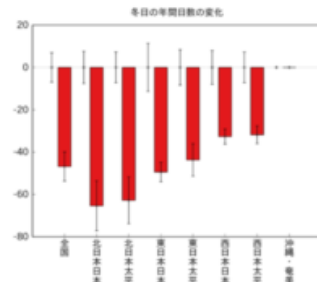
※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.5 節 図 4.5 及び付表 (A20 ページ)
(正)

(資料 4)

A4.5 冬日日数

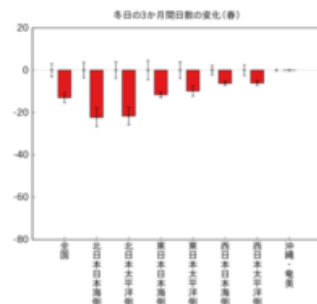
(a)



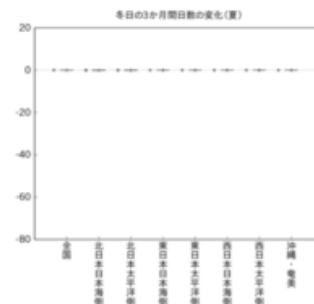
地域	年	春	夏
全国	-46.8 ± 6.9	-13.0 ± 2.3	-0.0 ± 0.0
北日本海側	-65.4 ± 11.8	-22.3 ± 4.4	-0.1 ± 0.0
北日本太平洋側	-62.8 ± 11.0	-21.6 ± 4.2	-0.1 ± 0.0
東日本海側	-49.4 ± 4.6	-11.6 ± 1.4	
東日本太平洋側	-42.7 ± 7.7	-9.9 ± 2.5	-0.0 ± 0.0
西日本海側	-32.7 ± 3.6	-6.2 ± 0.9	-0.0 ± 0.0
西日本太平洋側	-37.8 ± 4.2	-6.1 ± 1.1	-0.0 ± 0.0
沖縄・奄美			

地域	秋	冬
全国	-6.1 ± 0.7	-27.7 ± 4.9
北日本海側	-12.0 ± 1.6	-31.0 ± 8.2
北日本太平洋側	-12.3 ± 1.7	-28.8 ± 7.4
東日本海側	-1.7 ± 0.1	-36.2 ± 3.6
東日本太平洋側	-4.5 ± 0.6	-29.7 ± 5.7
西日本海側	-1.5 ± 0.2	-24.9 ± 2.8
西日本太平洋側	-1.9 ± 0.2	-22.8 ± 3.3
沖縄・奄美		

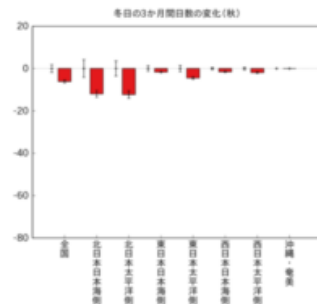
(b)



(c)



(d)



(e)

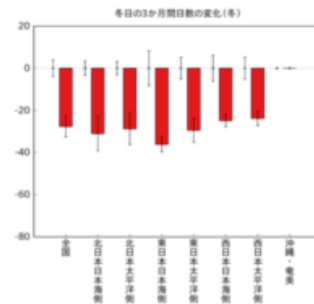


図 A4.5 及び付表 地域別の冬日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 夏 (6~8 月)、(d): 秋 (9~11 月)、(e): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (赤字) としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。

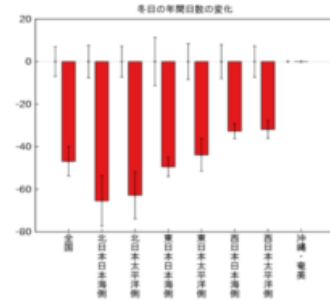
※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 4)

A4.5 冬日日数

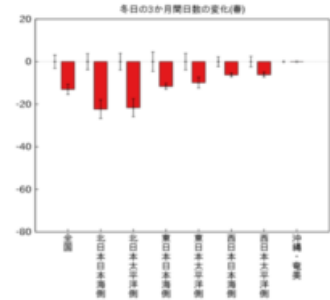
(a)



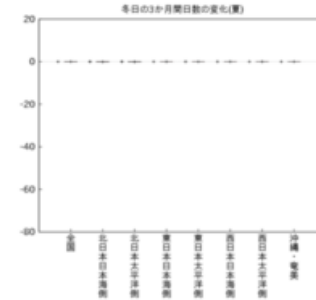
地域	年	春	夏
全国	-46.9 ± 6.9	-13.0 ± 2.3	-0.0 ± 0.0
北日本太平洋側	-65.4 ± 11.8	-22.3 ± 4.4	-0.1 ± 0.0
北日本太平洋側	-62.8 ± 11.0	-21.6 ± 4.2	-0.1 ± 0.0
東日本太平洋側	-49.4 ± 4.6	-11.6 ± 1.4	0.0 ± 0.0
東日本太平洋側	-43.8 ± 7.7	-9.9 ± 2.5	-0.0 ± 0.0
西日本太平洋側	-32.7 ± 3.6	-6.2 ± 0.9	-0.0 ± 0.0
西日本太平洋側	-31.9 ± 4.2	-6.1 ± 1.1	-0.0 ± 0.0
沖縄・奄美			

地域	秋	冬
全国	-6.1 ± 0.7	-27.7 ± 4.9
北日本太平洋側	-12.0 ± 1.6	-31.0 ± 8.2
北日本太平洋側	-12.3 ± 1.8	-28.8 ± 7.4
東日本太平洋側	-1.7 ± 0.1	-36.2 ± 3.6
東日本太平洋側	-4.5 ± 0.6	-29.3 ± 5.7
西日本太平洋側	-1.5 ± 0.2	-24.9 ± 2.8
西日本太平洋側	-1.9 ± 0.2	-23.9 ± 3.3
沖縄・奄美		

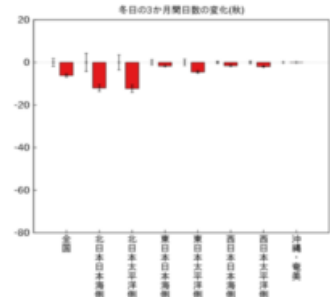
(b)



(c)



(d)



(e)

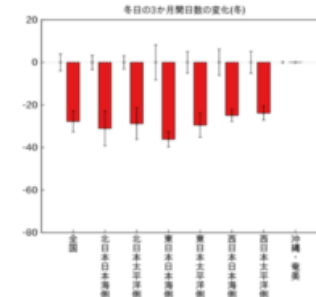


図 A4.5 及び付表 地域別の冬日日数の変化(単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅(混合分布による標準偏差(【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候)を示している。(a): 年、(b): 春(3~5月)、(c): 夏(6~8月)、(d): 秋(9~11月)、(e): 冬(12~2月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼水準 90%で有意に増加(減少)する場合は赤字(赤字)としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合など、変化及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。

【資料 4】 A4.6 節 図 4.6 及び付表 (A21 ページ)
(正)

(資料 4)

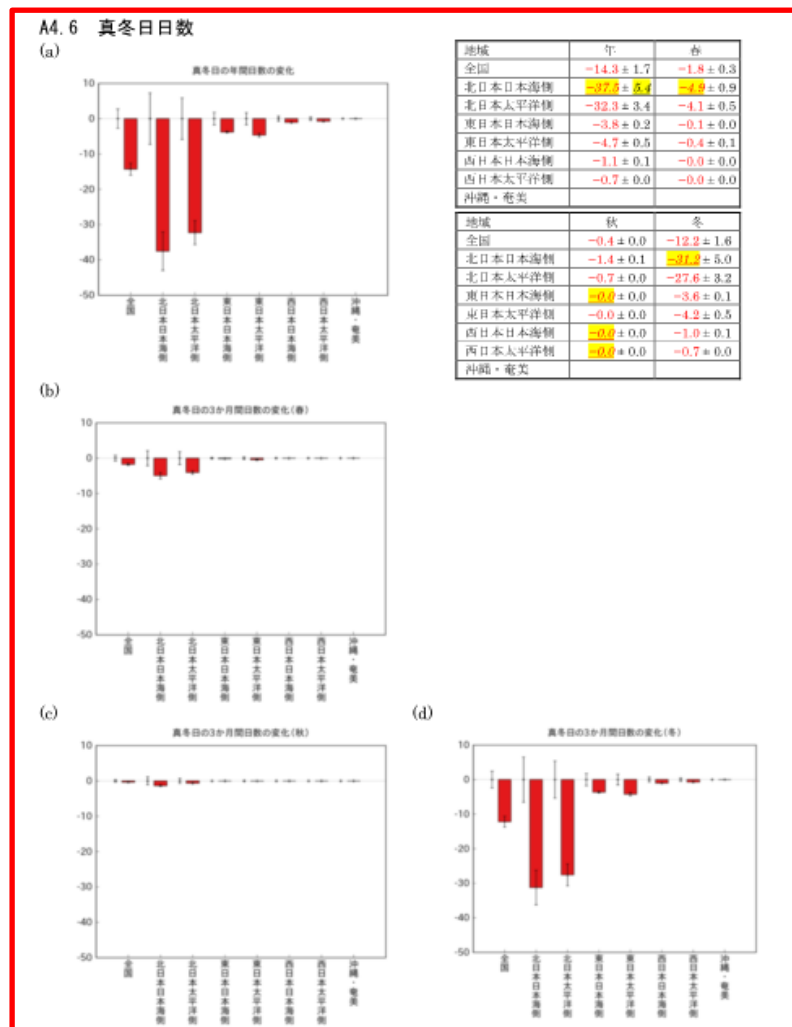


図 A4.6 及び付表 地域別の真冬日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 秋 (9~11 月)、(d): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量±標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は青字 (赤字) としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合は空欄としている。

※ 赤枠内の図及び背景が黄色で斜体下線文字の部分が、訂正したところ。

(誤)

(資料 4)

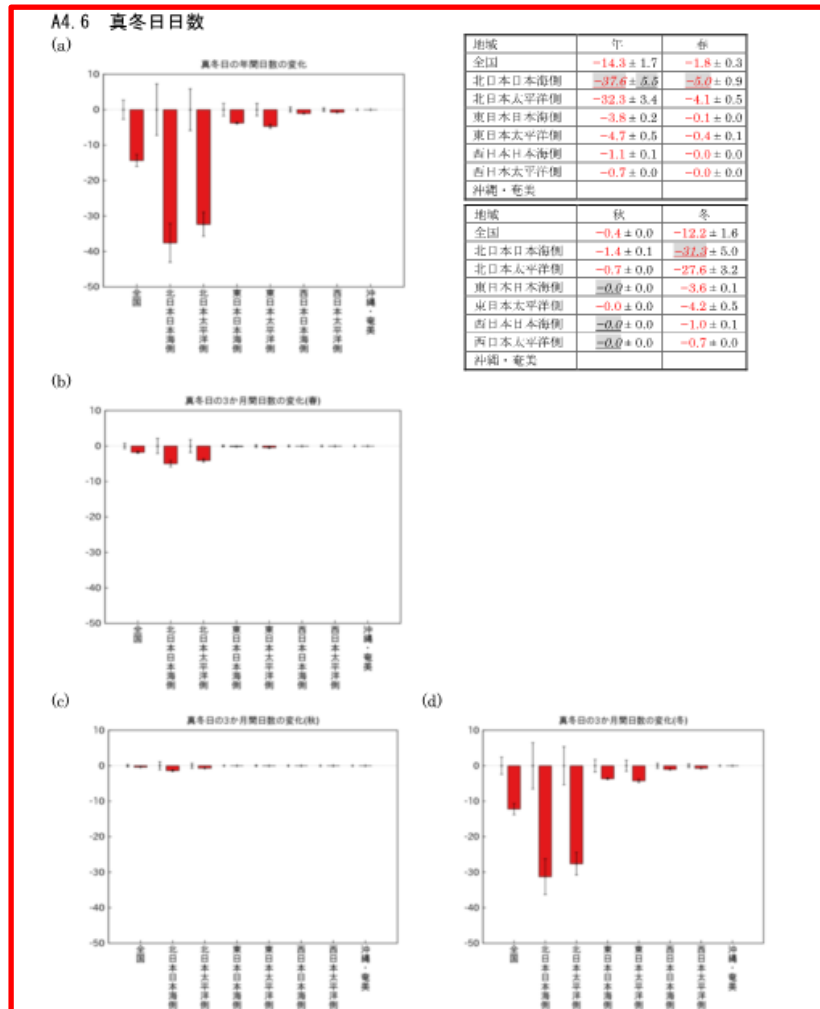


図 A4.6 及び付表 地域別の真冬日日数の変化 (単位: 日)

将来気候と現在気候との差を統計的に処理し、棒グラフは将来における 4 メンバー平均の変化量、細い縦線は年々変動の幅 (混合分布による標準偏差 (【資料 2】参照)) (各地域とも、左: 現在気候、右: 将来気候) を示している。(a): 年、(b): 春 (3~5 月)、(c): 秋 (9~11 月)、(d): 冬 (12~2 月)。右上の付表はそれらの各数値を「将来変化量 ± 標準偏差」で示し、その将来変化量が信頼度水準 90% で有意に増加 (減少) する場合は赤字 (赤字) としている。現在気候と将来気候のいずれも出現日数がゼロの場合など、変化及び標準偏差がともにゼロである場合は空欄としている。

※ 赤枠内の図及び背景が灰色で斜体下線文字の部分が、誤っていたところ。